

第 29 回「整形・災害外科 優秀論文賞」のお知らせ

本誌編集委員会では、昨年一年間の本誌に掲載された投稿論文（論究・臨床・手術・経験・症例欄等掲載論文）を対象に優秀論文の選考を行ってまいりましたが、この度、下記の論文が小誌における 2024 年（整形・災害外科 第 67 巻）の優秀論文に決定いたしました。

整形外科医による積極的骨転移診療介入(bone metastasis support)

前後の脊椎転移手術症例の変化

三浦一人ほか（長岡赤十字病院，脊椎脊髄外科）

〔整・災外 67：767—772，2024〕（6 号）

観血的整復が必要な足関節後果骨折の特徴

大嶋崇史ほか（札幌医科大学，整形外科学講座）

〔整・災外 67：1099—1103，2024〕（9 号）

人工股関節全置換術後の職業復帰とその予測・関連因子に関する検討

井上逸人ほか（九州大学病院，整形外科）

〔整・災外 67：1569—1573，2024〕（13 号）

選 者 評

本誌第 67 巻（2024 年）に掲載された投稿論文の中から、本誌編集主幹 5 名の投票により、3 編が優秀論文として選出されました。

三浦一人氏はがん患者の骨転移に対する整形外科的サポートの開始後、緊急手術症例は減少し、performance status が良好で歩行可能症例の割合が高まったことから、積極的な症例の拾い上げによる早期の診療介入の有効性を示されました。大嶋崇史氏は観血的整復が必要な足関節後果骨折を検討した結果、術前 CT 矢状断像で骨膜が破綻し、脛骨後方皮質の転位量が大きな例で推奨されることを示されました。井上逸人氏は人工股関節全置換術の職業復帰に関するアンケート調査を行い、復帰率は 82%、60 歳以下で復帰率が有意に高いこと、1 カ月以内の復職率は座り仕事で有意に早い、3 カ月以内の復帰率には仕事の身体負荷レベルは影響しないことを示されました。

上記 3 編の論文とも新しい知見に富む興味深い内容であり、優秀論文に相応しいと考えます。受賞者の皆様おめでとうございます。

受賞のことば

この度は「第29回 整形・災害外科 優秀論文賞」に選出いただき、驚きとともに大変光栄に存じます。今日、骨転移リエゾンなど、骨転移に対する集学的診療が全国各地で取り組まれつつあります。しかしそれらは大学病院など大規模施設からの報告が主だったところでもあり、診療体制の構築には質、量ともにマンパワーを要する場合が多いと推察されます。

それに対し、本研究から当施設のような地方都市のがん拠点病院ならではの、中小規模であるからこそ築ける診療科間やコメディカルとのより密接な連携の可能性を感じることができました。本論文が今後骨転移を診療する可能性のあるすべての整形外科医にとって、早期の適切な診療介入のヒント、一助となれば幸いです。最後に、骨転移早期診療介入のご指導をいただいた金沢医療センター 吉岡克人先生、また日々の膨大な画像を正確かつ迅速に診断いただいている当施設の放射線科の先生方にこの場を借りて深謝いたします。

三浦一人（長岡赤十字病院、脊椎脊髄外科）



この度は「第29回 整形・災害外科 優秀論文賞」に選出していただき大変光栄に存じます。足関節後果骨折に関しては、距腿関節面の1/4～1/3を占める骨片に対しては内固定を行うべきという報告や、近年着目されている遠位脛腓間不安定症を予防するために小さな骨片でも観血的整復・内固定を行うべきという報告もあり、議論が続けられています。今回われわれは、足関節後果骨折受傷時の単純CT画像に着目し、脛骨後方皮質の転位が大きい場合には骨膜の破綻が予想され、破綻した骨膜や血腫の介在により後果骨片の非観血的整復が困難な可能性があることを報告しました。この研究が今後の臨床の一助となり、役立てば幸いです。今回の受賞を糧に、今後さらに臨床だけでなく研究にも邁進して参りたいと思います。最後に、本研究においてご指導いただいた、札幌医科大学医学部整形外科学講座の寺本篤史先生、藤本秀太郎先生、北海道済生会小樽病院の近藤真章先生、和田卓郎先生、織田 崇先生にこの場をお借りして深謝いたします。

大嶋崇史（札幌医科大学医学部、整形外科学講座）



この度は「第29回 整形・災害外科 優秀論文賞」に選出していただき、大変光栄に存じます。人工股関節全置換術後の職業復帰の予測・関連因子について調査した報告はこれまでにありませんでした。術後の就業復帰について明確なデータをもって術前説明をすることができればと思います。本邦の現状を明らかにするために本研究に取り組みました。本研究では、職種、職業復帰率、復帰時期に加えて、4つの患者立脚型評価を検討することにより、術後の就業のみならず満足度・生き甲斐のさらなる向上につながることも明らかになりました。この知見を臨床での術前説明および手術適応に少しでも活用していただければ幸いです。今回の受賞を糧に、今後も臨床に結びつくような研究をしていきたいと考えております。最後に、本研究を行う上で論文作成のご指導をいただいた濱井 敏先生をはじめ九州大学病院整形外科の先生方に心より感謝と御礼を申し上げます。

井上逸人（九州大学病院、整形外科）



優秀論文の筆頭執筆者には、賞状ならびに副賞として金一封・記念品を贈呈いたします。

本誌編集委員会では今後も継続的に各年毎の掲載投稿論文を対象に「整形・災害外科 優秀論文賞」の選考を行ってまいります。読者の皆様の活発な研究発表の場として、小誌を存分にご活用ください。

（整形・災害外科 編集室）